
ヒーリング最高

猫美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ヒール最高

【Nコード】

N0815Z

【作者名】

猫美

【あらすじ】

おかしい。会社帰りの電車の中だったはずなのに。気がついてみれば赤ん坊。

ああ・・・転生モノってヤツですか。

ストーンと納得してしまう。そこから始まる第二の人生。魔法のあるファンタジーな世界じゃないですか。

ふっふっふ。となれば、当然ヒールですよ。ヒール。

攻撃魔法？興味ないですな。はっはっは。

／表現が苦しかったとしても一人称の視点を切り替えながら展開し

ていきたいと思っています。頭の中身を書き出すのに慣れていない
為、どうか気長におつきあいいただければと思います。

ギャン泣きした日

記憶がはつきりとしなのだが、あまりの息苦しさで頭痛に思わず泣いた。

大声を出して泣いた。

ギャン泣きつて奴だ。

我ながら、恥ずかしいのだが・・・どうにも苦しかったのだ。頭痛も、締め付けられるような頭痛で泣いた。

いやいや。

ほんと、もうスゴイんだって。

思わず大の大人がギャン泣きするレベル。

大声を出して泣いたので、ちょっとすつきりした。

周囲を見回すが・・・どうにもうまく見回せない。

自分の状況が理解出来ない。

茶髪の看護婦さんが覗き込んで来る。

看護婦さんが何かを喋っているのだが、理解が出来ない。「なんですか？」

と聞いたつもりなのだが、きちんと喋れたのか怪しい。

耳の調子が何やら変だ。

自分の状況が理解出来ない。

理解出来ないのだが、猛烈に眠い。フェードアウト。

状況を整理しよう。

どうやら、赤ん坊らしい。

あまりの事に、頭の中が真っ白になったが、事実は事実として受け止めた。

夢なのかと何度も疑ったが、日常が連続しているので、事実のようだ。

ああ、転生モノって奴かと、変な理解をした。

見た感じ、SFモノって訳では無さそうだ。

どちらかというと、ファンタジー系。

魔法の有無は未確認。

相変わらず、周囲の人が何を喋っているのかは解らないが、隣に横たわっている可愛い人が母親のようだ。

ちよっと嬉し恥ずかし。

見つめられると照れる。

茶髪なんだけど、日の光が当たるとキラキラと輝いて、実に綺麗だ。

前世（？）の最後の記憶は、仕事帰りの電車の中だ。

珍しく席が空いていたので座ったら、沈み込む座席のあまりの気持ちよさに眠ってしまった。

そこから先の記憶が無い。

事故にでもあつて死んでしまったのか、脳卒中でも起こしたか。

まあ、考えた所で、寝ている最中に起こったことだ。

意識不明で集中治療室に運び込まれ、身体からは各種ケーブルが延びている状態なのかも知れないが、解らないモノは解らない。

心配してもどうにもならない。

ならば・・・取り敢えず寝よう。

考え事していると・・・とかく眠い。

フェードアウト。

あれから数日経った。

相変わらず、何を言っているのか解らない。

解らないが、母親は可愛い。

父親は・・・ちよつと厳ついが、自分を見てデレデレに蕩けていた。どうやら、良い両親の元に生を受けたようだ。

さて・・・日がな一日、暇で仕方がない。

会話も出来ないし、そもそも、動くこともままならない。

母親とお医者さん、看護婦さんの会話をじ〜つと聞いているくらいか、自分の今後の展望について考えるくらいだ。

まあ、展望を考えるとと言っても、どういふ世界なのが解らないので何とも言えない。

社会人になって、学業から解放されて久しいのだが、また、1からやり直しかと思うとげんなりする。

あの時、こうしていれば・・・という後悔に対し、やり直すチャンスを得たのだ。と考えれば、案外悪くない。

そついう考え方が出来るのも、前世の記憶があるからな訳だが・・・

ふと、心配になるのが、この前世の記憶って奴はいつまで残っているか？と言つことだ。

無くなつても困ることはないんだろうが、あると便利に違いない。

消えないといいなあ。

それにしても、会話が出来ないというのはもどかしい。

赤ん坊という奴は、どうやら身体の部位をつまぐコントロール出来ないから喋れないようだ。

実にもどかしい。

喋ろうと思うと、「うー」とか「あー」になつてしまふ。

とか考え事をしてしていると眠気が襲ってくる。

まあ、逆らう理由もないので寝るとしよう。

フエードアウト。

ギャン泣きした日(後書き)

Twitter @nekomihonpo

発声記念日

2歳になった。

日々、訓練を重ねたお陰で、喋れるようになった。

初めて「とうさま、かあさま」と喋った時、すごい喜びようで、もみくちやにされた。

まだまだ舌つ足らずではあるが、意思の疎通が出来るというのはスバラシイ。

まだまだ単語が解らないが、地道に憶えていくしかないだろう。

ありがたいことに文法は日本語に近い。

文字は、まだ解らないが・・・中国語みたいだと大変だなあ。

くらいに楽観視している。

自分の名前は、ウイル・ランカスター。

ランカスター家の長男だ。

母親は、リリーレルマ・ランカスター。

可愛い系のおっとり美人。

授乳の時、気まずかったのだが、コチラが一方向的に気まずいだけだ。

父親は、ウインザー・ランカスター。

見た目は厳ついが、母親や私に対してデレデレに蕩けるあたりのギヤップが酷い。

公務員という表現が正しいのかは解らないが・・・公務員のようだ。お陰で、良い暮らしをさせて貰っている。

・・・他と比較したことがないので解らないが、少なくとも、お手伝いさんの居る家庭は一般以上貴族未満だろう。たぶん。

ファンタジー系の転生モノで確定のようだ。

ケガをした時に、母親が治癒魔法を使ってくれた。いいね。治癒魔法。スバラシイ。

まだ、世界情勢とかは解らないが、治癒魔法を憶えて損はないはずだ。

ファンタジー系ってことは、RPGみたいな世界観ってことだ。

治癒魔法至上主義とでも言おうか・・・RPGでとにかく優先すべきは治癒魔法だ。という偏った考え方をしている。

いいぞ。治癒魔法。

回復にお金が掛からない。

つまり、装備にお金が回せるんだ。

魔法というと、攻撃魔法に目が行きがちだが、私は断然治癒魔法だ。死ななければいいのだ。

・・・おっと、ついつい暴走してしまった。

そんな訳で、治癒魔法には一方ならぬ思い入れがあるので、がんばって使えるようになりたいと思う。

治癒魔法の才能があるといいなあ。

発声記念日（後書き）

T w i t t e r @ n e k o m i h o n p p o

発声記念日のリリーレルマ（母親）

ウチの子は、ちょっと他所とは違うらしいの。

お母様から、

「子育ては大変よ。夜泣きで夜も寝てられないんだから」とか、

「男の子は大変よ。目を離すとすぐにやんちゃするんだから」とか・・・散々脅されていたのに・・・夜泣きらしい夜泣きを経験したことがないの。

まさか、私が気がつかずに寝ていたの！？と心配になったのだけれど、ノイナも夜泣きを聞いたことがないっていうし。

夜泣きもさることながら、昼間もあまり泣かないの。
あまり・・・という表現が控えめ過ぎるくらい泣かないの。

あまりにもおとなしいので、心配になってお医者様に相談したのだけれど、

「心配のしすぎですよ、ランカスター夫人。

お子さんは順調に育っていますよ」

と笑顔で言われてしまって、喜んで帰ってきたのだけれど・・・ウチの子は大人しすぎるのではないかしら？

ノイナに聞いても、

「ウィル坊ちゃんも賢い子です。

こちらの言っていることは理解しているようですよ、ダメと言ったことは守っているように見受けられます。

確かに、ちょっと静かな感じは致しますが」

なんてことを言うし。賢い子なんて言われてしまって、思わず嬉しくなっただけが緩んでしまったわ。

それにしても、子供って不思議。

何を言っているのか理解しようとしているのか、じつとこちらを見つめてるの。

こちらが気がついて訪ねてみると、

「ん？」

って首をかしげて・・・もう可愛くて可愛くて、思わずだっこしてしまっわ。

不思議と言えば、不思議な遊びをするのね。

部屋の隅の方で、

「あー」

とか

「うー」

って言っていたかと思うと、

「あーえういううえーおおー」

とか呪文みたいなこと言い始めるし。

ノイエに聞いても、

「初めて聞きました」

って言うし。

あれは何なのかしら？

可愛らしいからだっこしてしまうのだけれど。

もうすぐ2歳になるうかという頃に、ウィルがしゃべってくれたわ。

もう嬉しくて嬉しくて・・・ウィンなんか、もう大喜び。

「とうさま、かあさま」

なんて可愛らしい声で呼んでくれて、ウチの子は天使なんじゃないかって思っちゃった。

でも、いきなり、

「とうさま、かあさま」

なんてしゃべったので、ノイエも驚いていたわね。

ウチのウィルは知識欲の塊ね。

「かあさま、あれはなに？」

「これはなに？」

と質問責め。

色々な物に興味津々で聞いてくるわ。

そういえば、ノイエがお手伝いさんだっことを理解していたみたいだけれど・・・ノイエにでも聞いたのかしら？

ドンドンドンガン！という音が聞こえて、慌てて廊下に出たら、ウィルが階段から落ちて倒れていたの。

慌てて叫びそうになってしまったけど、落ち着いて深呼吸を繰り返したわ。

私が慌てるとロクな事がない。

まずは落ち着けて散々、お母様に言われていたからかしら。

「ウィル坊ちゃま。大丈夫ですか？」

ノイエが駆けつけて声を掛けてくれたの。

冷静になってからウィルの様子を見ると、頭を軽く切ってしまったみたい。

頭なので血が凄いことになっているのだけれど、ウィルが、

「ノイエ、かあさま・・・だーじよぶです。」

ていけつをおねあっています」

ってしっかりとした受け答えをしたので、かなり落ち着けたわ。

ウィルをそっと抱きしめて、

「聖なる魂よ。どうか、私の息子、ウィルの傷をお癒してください」と、ヒールを唱えたので、傷は治ったの。

「かあさま・・・いまのは・・・まほーですか？」

「ええ、そうよ。癒しの魔法。もう大丈夫かしら？」

「あい。だーじょぶです。それよりも、まほーのことをおしえてく
あさい」

もう、目をキラキラさせて、魔法に興味津々。

まだ難しいと思うのだけど・・・熱心に聞いていたわ。

将来は大魔道士でも目指すのかしら。

発声記念日のリリーレルマ(母親)(後書き)

Twitter @nekomihonpo

ヒーラーを試した日

この世界は魔法があることが解った。

大きく分けると3種類。

魔方陣や正確な呪文を唱えることで発動する呪印魔法。

神様(?)へのお伺いを立てることで発動する神聖魔法。

・・・むしろ申請魔法なんじゃないか？

とか余計なツツコミをしたりもするが。

後は、精霊との対話により発動する精霊魔法。

理屈は解っていないようなのだが、魔法を使うには素質が必要らしい。

MPの無い人には使えない・・・みたいなモンのようだ。

そのため、世界中の誰も彼もが魔法を使えるということは無く、一部の選ばれた人間だけが使える・・・と言ったような選民思想もあるらしい。

素質は遺伝しやすらしく、魔法使いの子供は魔法使いの素質があることの方が多いようだ。

数としては、呪印魔法>神聖魔法>精霊魔法となっている。

やはり、精霊と意思の疎通するのが難易度を高めるらしい。

その代わりと言っては何だが、意思の疎通で発動するため、小難しい手続きとか、お約束事が無いため、柔軟性は抜群。

逆に、呪印魔法は、魔方陣だの、呪文だのがガツチガチに決まっているらしい。

神聖魔法はその中間。

神様にお伺いを立てるとのことなのだが・・・別段、神の声を聞いたとか、そういう宗教的な事は無いらしい。

とは言え、身体を治すつてのは、神の奇跡と呼ぶに相応しく、宗教

と結びついているようだ。

魔法の所為で・・・所為と言い切ってしまうのもどうかと思うが・・・科学の発展は遅れている。
物理、化学、自然科学、人体、病理学、e t c、e t c・・・これらがかなり遅れている。

大抵のことは、魔法で片が付いてしまうからだ。
例えば、建造物には物理、数学などが必要なのだが・・・専門外なのでよくは解らないが・・・強度が足りなければ魔法で補えばいいのだ。

と言うか、魔法で強化するのがアタリマエになっている。
人体に関しても研究は進んでいない。魔法で治せばいいのだ。
人間、楽をするとダメだな。

天文だけは、占星術の絡みで結構進んでいる。
あと、魔法学も当然ながら進んでいる。
進んでいるのかは、よく解らないが、歴史は古いらしい。

ヒールっぽいモノを試してみたい。
もどかしいことこの上ないのだが、そうそう、ヒールを掛ける対象が居ない。

まあ、そりゃ、そうだ。
けが人が居た所で、3歳の子供にヒールをさせる馬鹿者は居ない。
と、なると、動物にでも・・・とは言え、これまた、素直にヒールを受けてくれるとも思えない。

さて、困った。
と、なると、植物にでも・・・とは言え、これまた、効果が解りにくいのが問題だ。

等々、もやっとな問題を考えながらうろついていたら、町を出てしまった。
やべっ。

さっさと戻らないと。

と、思っていたら、目の前に枯れた森が広がっている。

町の隣に、こんな寂しい風景が広がっているとは思わなかった。

「ふむ」

この枯れ木が、死んでしまっていたら、どうにもならないが、もし・
・もし、万が一、生きていたら・・・ヒールが効くんじゃないか？
と思いついてしまった。

町に戻るのヒールを試してからでも遅くはないか？

・・・ってことで試すことにした。

枯れ木に手をかざし、目をつぶる。

「ヒール」

・・・ダメか。

何も起こらないな。

そもそも、神聖魔法らしからぬ唱え方じゃだめか。

「我、彼の者を癒すことを願いたてまつらん。ヒール」

前に母様が使った呪文が思い出せないので適当だ。

こんなのでいいのかわかどうかは解らないが、身体から何かが抜ける感
じがして気だるくなった。

ちなみに、ヒールと唱えただけでは気だるくなったりしない。

それっぽい呪文を加えることで気だるくなる感が追加された。

ってことは、ヒール・・・かどうかは解らないが、何かが発動した
んだろう。

見た目、なんら変わりはないが、ちゃんと発動したんだろうか？

まあ、枯れ木が急にみずみずしくなっても気持ち悪い。

時間が掛かるんだろう。

もう一発くらい撃ち込んでおくか。

「我、彼の者を癒すことを願いたてまつらん。ヒール」
気だるさが一気に増した。

いかん。立ってるのも億劫だ。

なるほど。

これがMP切れ状態か？

座りたくてしょうがない衝動を抑え込みつつ、取り敢えず、町へ戻った。

2発でMP切れとは情けない。

情けないが、枯れ木相手なら誰も困らないし、実験には良いかも。

ばれて大事になっても面倒だし・・・街道から少し奥まった所で実験することにしよう。

今日は、良い収穫であった。

満足である。

はっはっは。

次の日から、2mほど奥まった所の木に毛糸を結び、ヒール実験を開始した。

2日後には、枯れ木に花・・・ではなく、芽吹いてきた。

自分のヒールに効果があったことが解り、小躍りしてしまった。

が、一週間後には、再び枯れてしまった。

別の木々も同じ状態になったことから、根本的に何かが間違っているらしい。

とは言え、何が間違っているのか解らないので、日々、ヒールを続けた。

三週間も経とうかという頃、ふと思い至った。

そもそも、枯れた原因は何だったのか？

原因も取り除かずにヒールをした所で、穴の空いたバケツに水を注いでいるだけではないのか？

さて・・・植物の専門家ではないので、植物の病気が解らない。これでは、単純にヒールのスパルタをしているだけではないか。

まあ、その甲斐あって、ヒール3発まで撃てるようになったが・・・それはそれ。

相手の状態を調べる手段があっても良さそうだ。

再度、枯れてしまった木に手をかざし、目をつぶる。

「我、彼の者の不調を知りたいを願いたてまつらん。リサーチ」

かなり適当な呪文ではあるが、そういう適当さを寛容に受け止めてくれるのが神聖魔法のいい所・・・というかい加減な所。

まあ、機能というか、効能が無かったら発動しないけどね。

目をゆっくり開けると、枯れ木にぼんやりと色が付いている。

色が付いているというか、もやもやがまとわりついている。

ほとんどは、白というか灰色なのだが、地面・・・恐らく根っこがあるであろう部位が赤い。

つまり、根っこに病気があるのかな？

病気の詳細が解らないが、治せるもんだろうか？

ま、治ったらラッキーくらいの意気込みでやってみますか。

「我、彼の者の異常を取り除くことを願いたてまつらん。リコンディション」

赤い部位が青く光り、明滅を繰り返した後、薄い緑になって白に変わった。

治ったってことだろうか？

「我、彼の者を癒すことを願いたてまつらん。ヒール」

・・・さて、こいつはしばらく様子見だな。

ってことはだ・・・今までヒールしてきた木は、全てやり直しか。やれやれだ。

リサーチは、それほどでも無かったが、

リコンディションは、気だるさが多い気がするな。

今のMPでは無理があるってことだろうか？

今のMPだと、リサーチ、リコンディション、ヒールでほぼすっからかな。

ま、続けていれば、MPも増えるだろうし・・・まだまだ若いんだ。
どうとでもなるだろう。

本日作業分目印の毛糸をくくりつけ、町に戻ることにした。

ヒールを試した日(後書き)

Twitter @nekomihonpo

ヒールを試した日のノイナ（家政婦）

「ウイル坊ちやま〜？ウイル坊ちやま〜？」

お屋敷の中をお探しましたのですが、見当たらず、今は庭を探してさまよっているのですが・・・見当たりません。

ウイル坊ちやまは、どこに行かれたのでしょうか？

万が一・・・ということも考えられます。
早くお探しせねば！

「あらあら、ノイナ。どうしたの？」

「あ、リリー奥様。

も、申し訳ありません。

先ほどから、ウイル坊ちやまのお姿が見当たらないのです」

ちよつと目を離れた隙に・・・なんてのは言い訳にしかありません。
ひたすらに謝り、一刻も早く探し出さねばなりません。

「あら、それなら・・・」

「え？」

「少し前に、

『かあさま、町をみてきます』

って言うので、

『気をつけて行ってらっしゃい』

って見送ったのよ。

ノイナに伝えておくべきだったわね。

「ごめんなさい」

「いえ・・・私のことはいいのですが・・・ウイル坊ちやま、お一人で行かれたのですか？」

「そうねえ。

お友達と行くとは聞かなかつただけけれど」

い、いくらなんでも放任主義過ぎます。

こ、これは急いでお探しせねばなりません。

「お、奥様。

いくらなんでも危険過ぎます。

ウィル坊ちゃまは、しっかりしたお子ではありますが、まだ3歳です。

誘拐・・・は無いかと信じていますが、大人の力には逆らえませ
ん。

どこかでケガをしているかも知れません」

「あらあら。

確かに、そういう心配はあるかも知れないけれど・・・ノイナは
心配しすぎじゃないかしら？」

「いいえ、奥様。

心配しすぎということは、決してありません」

「男の子なんですから、少しくらい、やんちゃでもいいと思うのだ
けれど？」

奥様がやんちゃ過ぎます！・・・とは言えない私。

「私、急いで探しに行つて参ります」

「あらあら。そう？悪いわね」

「では、行つて参ります」

取る物も取り敢えず、町に出て聞き込みです。

買い物なじみのおやつさんから有力情報を得ました。

なんでもウィル坊ちゃまらしき子供が、町の外の方へ歩いて行つた
そうです。

何故、そこでお止めしないのかっ！

と理不尽なことを言いたくもあつたのですが、まずは坊ちゃまの安
否が大事です。

こちらの外には枯れ森しかなかったはず。

誘拐の危険も少ないはずです。

枯れ森には、危険な野生動物も居なかつたはずです。

ある意味、一安心と言つた所でしょうか。

町の外へ急ぎましょう。

「あれ？ノイナさんじゃないか。」

「そんなに急いでどこに行くんだい？」

「あ、ジャックのおやじさん。」

「ご無沙汰しております。」

「ウイル坊ちやまが、こちらの方に来たと聞いて、大急ぎでやってきたのです。」

「見かけませんでしたか？」

「ウイル坊ちやんつてくと、ランカスターんとこの坊主だな？」

「はい。」

「まだ3歳の小さな子なのですが、枯れ森の方へ歩いて行ったという話を聞きました・・・」

「ふくむ・・・じゃあ、あれが坊ちゃんだったのかな？」

「！？・・・何かご存知なのですね！？」

「あ、ああ・・・なんか小さい坊主が、肩を落としながら町の中心へ向かっているのを見たからな」

「ええっ！？」

「い、いつですか！？」

「ああ、それこそ、今しがただよな、なんとということでしょう。」

「これは急いで戻らなければなりません。」

「私は急いで追わねばなりません。」

「貴重な情報、ありがとうございます。」

「また、お店の方には、今度寄らせていただきます」

「あ・・・ああ・・・すぐに追いかければ見つかるさ」

「はい！ありがとうございます。」

「それでは失礼します」

「なんとということでしょうか。いえいえ。」

貴重な・・・それこそ珠玉な情報を頂きました。

急いで町中に戻りましょう。

「ウイル坊ちやま〜！」

あれからすぐにウイル坊ちやまを見つけることができました。

ああ、ご無事で何よりです。

お手々を引いて家に帰りました。

それからと言う物、ウイル坊ちやまが、町へ出かけているようなのです。

ふと、半刻（35分程度）〜1刻（70分程度）ほど、ウイル坊ちやまを見かけない日があったのです。

思い返してみると、毎日、半刻程度見かけないのです。

リリー奥様と一緒になのかと思い、確認を試みましたが、

「ノイナと一緒にだったんじゃないの？」

との仰せ。

こっそりと抜け出しているようなのです。

本当に、本当に偶然、買い物途中で、ウイル坊ちやまらしい後ろ姿を見かけたのですが、その日は見失ってしまいました。

ウイル坊ちやまに限って、悪さをしているとは考えにくいのですが、もし、ここでウイル坊ちやまが悪の道に走ってしまったら、ランカスター家の家事を預かる身の名折れ！

なんとしても確かめねばなりません！

と、心に誓って、こっそりと監視しているのですが・・・今日もまた、気がつくとおりませんでした。

「ウイル坊ちやま〜？」

ヒールを試した日のノイナ（家政婦）（後書き）

Twitter @nekomihonpo

まだまだ駆け出しの段階で評価をいただき、ありがとうございます。
その評価に恥じぬよう・・・ご期待に添える展開を書くことが出来
ればと思っております。では。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0815z/>

ヒール最高

2011年12月5日23時48分発行